医師会だより

子供の新型コロナワクチン接種

子供の感染の特徴

新型コロナウィルス感染症は、インフルエンザ感染症に比べ、子供が重症化する場合は少なく、親が外から家庭へ持ち込む場合が大半です。

感染症法で発症者の隔離期間が「発症日から10日間経過し、かつ、症状軽快後3日間経過していること」と定められています。子供であっても例外ではありません。同居の人が濃厚接種者と判断されたら14日間の外出自粛、健康観察が必要となります。子供が入院や施設療養が難しい場合は自宅療養となり感染する可能性が高くなります。

学校での集団発生（クラスター）では多くの家庭でこのようなことが起きますので、学校内感染では一人の発生で学級閉鎖、休校となる場合があります。

学級、学校の閉鎖は子供達にいろんな弊害をもたらし、長期間になればなるほど大きな問題が出てきます。

ワクチンの効果・副反応

感染防止対策としてはマスク・手洗い、自粛生活とワクチン接種があります。現在では、多くの高齢者へのワクチン接種が行われ、高齢者の感染が減少しました。

ワクチンは個人の感染、重症化を防ぐだけでありません。人口の一定割合以上の人が免疫を持つことで、感染患者以外も感染しにくくなり流行が抑えられます。免疫を持たない人も感染から守ります。集団免疫と言い、社会全体が感染症から守られます。

今回のワクチンは若い人ほど、発熱や局所の痛みなどの副反応が強く出やすいと言われています。痛みや不安から生じる接種直後の血管迷走神経反射も若年者が出やすいです。長期的な副作用についての様々な意見があります。

子供では判断は難しいかもしれません。親御さんの理解のもと、打つべきかどうか慎重に検討してください。「接種しない」との判断を非難してはいけません。

個別接種を推奨

まもなく10歳代の人に接種券が送られてきます。意思決定にはかかりつけの先生に相談されると良いです。アレルギーのある子。注射を怖がる子。かかりつけの先生であればその子の特性をよく知って助言してくれることでしょう。接種時の安心感も高いです。かかりつけ医療機関での接種を勧めます。

大村市では、週末、夜間にも集団接種会場で接種を行っています。時間が取れない人は利用してください。集団接種に不安があるかもしれませんが安全安心に十分配慮し、子供たちの接種が行えるように環境を整えています。

接種する意義あり

日本小児科学会は「健常児も接種する意義はある」と言っています。

お子様と一緒に家庭での感染防止対策を話し合ってください。

食物アレルギー・花粉症・アナフィラキシー

食物アレルギーは発症機序で1、2の分類されます。

食物アレルギーは、大豆などの卵白（たまご）、牛乳、小麦（アレルゲン）を含む食物が代表的です。2歳までに約90%が治癒しますが、4歳以降の学童期に起こる食物アレルギーは、ピーナッツ、そばなどの食物アレルギーは、成人に多く、生涯持続することが多いです。

経口摂取は、食物アレルギーの原因となる食物を摂取することです。

経皮作用は、アトピー性皮膚炎の患者さんに塗布した薬剤が原因となることです。

経鼻的に気道感作が最初に起こり、その後各種のフィルギーが生じて来ることです。

経気道感作は、花粉などの呼吸器アレルギーが生じて来ることです。

経腸管感作は、ピーナッツ、野菜類に含まれるタンパク質が腸管内で消化されずに残ったものが原因となることです。

経皮感作は、ウルシやハゼ、ヒノキ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ、ヒイラギナンテンなどの植物の葉や茎、樹皮などに含まれるアレルギーを起こす物質が皮膚に触れたり、ロンを食べると、唇がピリピリ感じたり、口腔内違和感、腫れたりなどの症状を訴えて受診されます。

花粉症は、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ハンノキ、オオアワガエリ、ハルガヤ、ハルジオン、ハルノノゲシ、ハルムギ、ヒメジョオン、ヒメスイバ、ヒメムカシヨモギ、ヒメヨモギ、ヒロハコメツブツメクサ、ブタクサ、ブタナ、ヘラオオバコ、ヘラジカ、ヘラスギ、ヒノキ、ヒノキ科、ヒノキ科ヒノキ、ヒノキ科ヒノキ属、ヒノキ科ヒノキ属ヒノキ、ヒノキ科ヒノキ属ヒノキ、ヒノキ科ヒノキ属ヒノキ